

JSCが提供した事故情報の活用について

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）は、事故防止に対する取組に活用できる教材や資料を「災害共済給付Web」等で提供しています。

今回は、関西体育授業研究会の講座で、園田学園女子大学 山崎先生から「体育授業におけるリスクマネジメントー体育に怪我はつきもの？」と題した講義が行われ、JSCが提供した情報・データの説明とJSCが作成した事故防止資料を活用いただきましたので、その内容を御紹介します。



園田学園女子大学 人間教育学部 山崎 雅史 准教授

公立小学校教諭、教育委員会指導主事、大阪教育大学附属池田小学校指導教諭を経て現職。

小学校における体育活動中の事故防止や安全教育（生活安全・交通安全・災害安全）の進め方、防犯対策を中心とした安全管理に関する研究をされています。

1 講義をされた山崎先生にお話をお伺いしました。

【JSCの情報・データを分析されたきっかけは？】

学校や教育委員会での業務において、たくさんの事故やけがを見てきました。学校では児童生徒が活発に活動するため、事故が起こりやすいと思います。事故が発生してから対策するだけでなく、発生前に対策をして事故を防止することが重要ではないかと感じています。

死亡や障害といった重大事故は事例等が取り上げられることがあるため、防止対策等を考えることができますが、学校現場では重大事故以外にも多くの事故が発生しています。一歩まちがえれば重大事故に発展したかもしれない小さな事故を未然に減らしていくことで、大きな事故が減らせると考えています。

よって、小さな事故を含めた事件事例やデータを分析して事故の傾向や原因を考え、その傾向や原因から事故防止対策を示すことにより、学校現場で体育授業を行う教員に少しでも役に立てればと思いました。

学校現場等にいる時に、感覚的に事故の傾向は感じていましたし、JSCからも各種資料をいただきましたが、実際のデータを分析することが必要と考え、全国の平成25年度から令和2年度の8年間の体育活動中に発生した事故のデータについて、JSCに提供をお願いしました。

【JSCの情報・データを分析してどのように活用されますか？】

JSCから提供いただいたデータをもとに、平成25年度から令和元年度の小学校の「学年別」「男女別」「運動種目名」「負傷名」などで分析を行いました。

体育には、教科書がないため、指導にあたっての事故防止のポイントに関する情報が乏しいと感じています。JSCから提供いただいたデータを分析して、事故の傾向や内容を明らかにし、様々な方法で発信して体育活動中の事故防止に役立てていただければと考えています。

山崎先生が分析結果等に基づき執筆された論文は、次のとおりです。

- ・「小学校体育の授業における学年別・性別負傷発生状況の概観」
『発育発達研究』第95号, 71-81, 2023 日本発育発達学会
- ・「児童の跳箱運動における学年別災害発生状況に関する研究」
『安全教育学研究』第23巻第1号, 53-60, 2023 日本安全教育学会

2 講義の様子を取材しました。

第12回関西体育授業研究会 令和5年11月25日(土)
テーマ「授業力向上 ～子供たちが繋がる教材づくりを通して～」
授業づくり講座「体育授業におけるリスクマネジメントー体育に怪我はつきもの？」

講義では、

・授業をするうえで、考えないといけないことのひとつは、安全面のことである。重大事故は注目され問題になるが、大事には至らないけが、すなわち取り上げられることがない事故の件数が圧倒的に多く、その事故を減らすことが重大事故の減少につながることになる。

・私自身の小学校での指導経験から、事故が発生すると、小さな事故でも、児童が不安になったり、怖がったり、その運動や競技が苦手になってしまったり、児童にとってはその後の活動に大きく影響すると考えている。教師にとっても指導する自信がなくなる、指導に苦手意識をもつ、という悪循環が発生し、授業づくりにも影響が出てくるため、小さな事故ですんでよかった、とはならない。

・軽微な事故やヒヤリハットを防ぐことが大切と考えている。
などの説明がありました。



〈講義の様子1〉

〈講座での講義資料の一部〉



学年	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1	跳箱運動											
2	跳箱運動											
3	跳箱運動											

事故防止策を考えよう

- 跳箱運動: 助走距離を短くする(壁からスタートするなど物理的な工夫)、着地にも意識を促して取り組めるような工夫を行う
- マット運動: 動作歩きなど、手で体を支える動きを意図的に取り入れる(跳箱運動も)、取り組む内容や場に危険が潜んでいないか改めて確認する
- バスケットボール: 一般的なバスケットボールではなく、柔らかいボールを遊ぶ、ゲームの人数を減らすなど、接触が避けられる機会が減少する工夫を行う

体育授業における事前の危機管理(リスクマネジメント)の重要性、事件・事故が起こる危険を予測し、危険に気づいて、その危険を確実に除去することの大切さについて、山崎先生が提案されました。

講義の中では、JSCが提供した情報・データを分析された小学校の運動種目別・男女別の事故発生の傾向や学年と負傷部位との関係について説明があり、また、JSC作成の教材カード「体育の授業中の骨折事故を防ごう！」を配付し、学校現場で活用してもらいたい、と紹介いただきました。

〈教材カード「体育の授業中の骨折事故を防ごう！/体育の授業中の骨折事故の原因と防ぎ方」〉



〈講義の様子2〉

講義後半では、グループに分かれて受講者同士で、各学校や各自で体育の授業で取り組んでいる事故防止対策について意見交換が行われ、情報を共有されていました。

講義の最後に、児童のために事故を防ぐことはもちろんであるが、事故が発生すると授業づくりにも影響が出るので、是非とも今日の講義の話を、各学校に持ち帰り、教員間で情報共有をして、事故防止に役立ててほしい、と山崎先生がまとめられました。

3 講義の取材を終えて

山崎先生のデータの分析結果や具体的な事故防止の対策などの講義、さらに意見交換により各学校での取組も情報共有されたことで、受講者の事故防止の意識が高まり、体育の授業づくりの参考となったと思います。

山崎先生、講義で貴重なお話をいただきありがとうございました。

4 最後に

JSCでは、「災害共済給付Web」として、学校等の管理下における事故防止のための情報を掲載しています。学校等の現場で役立つ情報を随時更新していますので、是非ご覧ください。

〈参考資料〉

- ・ [災害共済給付Web](#)
- ・ [災害共済給付Web「教材カード」](#)
- ・ [教材カード「体育の授業中の骨折事故を防ごう！/体育の授業中の骨折事故の原因と防ぎ方（小学校向け）」](#)

【問い合わせ】日本スポーツ振興センター災害共済給付事業部大阪支所
TEL : 06-6456-3601 E-mail : saigaiyosai-osaka@jpnspport.go.jp